●特集● *Headline*

加速する
橋梁の長寿命化対策

……P9

KAWADA REPORT

写真：豆谷大橋（富山県）

KAWADA technologies

第10期 株主通信

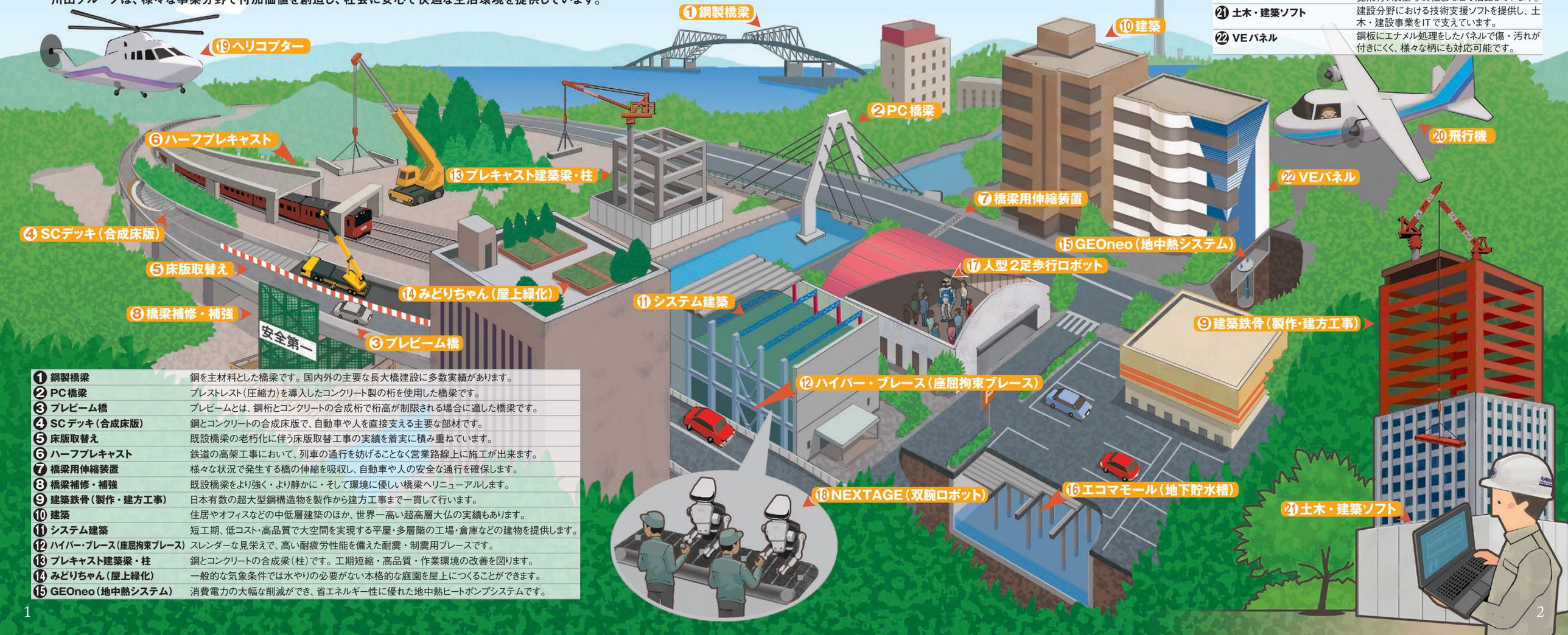
2017年4月1日 >>> 2018年3月31日

証券コード：3443

事業紹介

幅広い分野に広がる川田グループの ビジネスフィールド

川田グループは、様々な事業分野で付加価値を創造し、社会に安心で快適な生活環境を提供しています。



❶ 鋼製橋梁	鋼を主材料とした橋梁です。国内外の主要な長大橋建設に多数実績があります。
❷ PC橋梁	プレストレスト（圧縮力）を導入したコンクリート製の桁を使用した橋梁です。
❸ プレビーム橋	プレビームとは、鋼桁とコンクリートの合成桁で桁高が制限される場合に適した橋梁です。
❹ SCデッキ（合成床版）	鋼とコンクリートの合成床版で、自動車や人を直接支える主要な部材です。
❺ 床版取替え	既設橋梁の老朽化に伴う床版取替工事の実績を着実に積み重ねています。
❻ ハーフプレキャスト	鉄道の高架工事において、列車の通行を妨げることなく営業路線上に施工が出来ます。
❼ 橋梁用伸縮装置	様々な状況で発生する橋の伸縮を吸収し、自動車や人の安全な通行を確保します。
❽ 橋梁補修・補強	既設橋梁をより強く・より静かに・そして環境に優しい橋梁へリニューアルします。
❾ 建築鉄骨（製作・建方工事）	日本有数の超大型鋼構造物を製作から建方工事まで一貫して行います。
❿ 建築	住居やオフィスなどの中低層建築のほか、世界一高い超高層大仏の実績もあります。
⓫ システム建築	短工期、低コスト・高品質で大空間を実現する平屋・多層階の工場・倉庫などの建物を提供します。
⓬ ハイパー・ブレース（座屈拘束ブレース）	スレンダーな見栄えで、高い耐疲労性能を備えた耐震・制震用ブレースです。
⓭ プレキャスト建築梁・柱	鋼とコンクリートの合成梁（柱）です。工期短縮・高品質・作業環境の改善を図ります。
⓮ みどりちゃん（屋上緑化）	一般的な気象条件では水やりの必要がない本格的な庭園を屋上につくることができます。
⓯ GEOneo（地中熱システム）	消費電力の大幅な削減ができ、省エネルギー性に優れた地中熱ヒートポンプシステムです。

⓰ エコマモール（地下貯水槽）	雨水を一時的に地下に貯留することで、都市環境や人々の生活を水害から守ります。
⓱ 人型2足歩行ロボット	自力で立ち上がる!! 世界トップレベルの2足歩行ヒューマノイドロボットです。
⓲ NEXTAGE（双腕ロボット）	ヒトと共存して働くことのできる製造現場用途向けの作業ロボットです。
⓳ ヘリコプター	報道や救助の現場で活躍中です。伊豆諸島の島々を結ぶ定期便も毎日運行しています。
⓴ 飛行機	東京（調布）と伊豆諸島を結ぶ定期路線や遊覧飛行、航空写真撮影などで活躍しています。
㉑ 土木・建築ソフト	建設分野における技術支援ソフトを提供し、土木・建設事業をITで支えています。
㉒ VEパネル	鋼板にエナメル処理をしたパネルで傷・汚れが付きにくく、様々な柄にも対応可能です。

持続的成長と企業価値の拡大に向けて中期経営計画を着実に遂行します。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

ここではインタビューを通じて、当期（2018年3月期）の営業状況をご報告し、中期経営計画に基づく取り組みの進捗と今後の見通しをご説明いたします。

ご一読のほどお願い申し上げます。

代表取締役社長

川田忠裕

Q ＞当期（2018年3月期）の経営成績についてお聞かせください。

A ＞鉄構セグメントを中心に受注高・売上高を拡大。前期の反動を受け減益ながら計画以上の成果。

この1年間の受注環境を振り返ると、橋梁事業において、新設事業から老朽化対策としての補修・保全工事へのシフトが本格化しつつある中、鉄構セグメントにおける鋼製橋梁において、年度を通じて順調に新設橋梁の受注を積み重ねることができました。

その中で当社グループは、前期からの豊富な繰越高を受け、鉄構・土木セグメントを中心に売上高を伸ばすことができたものの、鉄構セグメントにおける設計変更の獲得額が前期に比べ減少したことに加え、建築セグメントにおけるシステム建築の割合が低下したことで、利益は減少しました。結果として連結業績は、受注高が1,221億円（前期比12.7%増）、売上高が1,072億円（同3.7%増）に拡大する一方、営業利益の44億円（同24.9%減）をはじめ、各利益段階で減益となりましたが、期初の利益計画に対しては上回る成果を上げることができました。

経営成績をセグメント別に振り返ると、主力の鉄構セグメントは、橋梁事業において高速道路会社の大型補修工事や新設橋梁案件の獲得により受注高を大幅に伸ばしました。売上高は、首都圏大型工事の製作が順調に進んだことにより鉄骨事業において大きく増加しましたが、営業利益は、設計変更の獲得額が減少したため、減益となりました。

土木セグメントは、新設PC橋梁から床版取り替えを中心とした補修案件へのシフトが進む中、新設PC橋梁の受注が伸び悩んだため前期を下回りました。売上高は、豊富な繰越高を受け拡大し、営業利益は、大型工事における設計変更の獲得やPC工場の高稼働により、大幅増益を果たしました。

建築セグメントは、ほぼ前期並みの受注高を確保したものの、獲得時期が下期に集中したことから期中の出来高が伸びず、売上高は減収となりました。また営業利益は、採算性の高いシステム建築の割合が低下したことなどから減益となりました。

その他セグメントは、「i-Construction」の流れを受けたICT関連事業が好調に推移し、売上高を伸ばしましたが、その他の事業における販管費の増加により損失を計上しました。

Q ＞中期経営計画の進捗状況はいかがですか？

A ＞既存事業の収益力を着実に高めながら成長領域への投資を実行。売上高目標は1年前倒しで達成の見通し。

当期は、2020年3月期を最終年度とする「第1次中期経営計画」をスタートさせました。本計画は「既存事業における収益力の強化と効率化への投資」「経営基盤の強化」「新しい成長領域の構築」「人材育成と組織能力の向上」の4つを基本方針に掲げ、事業環境の変化に対応したセグメントごとの成長戦略を推進するものです。

計画初年度の進捗として、既存事業については、総じて良好な環境を背景に収益力を着実に高めつつあり、効率化および生産増強への投資を進めている状況です。

新たな成長領域については、一定の時間を要する成長テーマとして、ロボティクス事業を中心に従来からの取り組みを継続しつつ、当社グループの強みを発揮できる成長分野へもチャレンジしてまいります。

人づくり・組織づくりについては、従業員満足度の向上およびモラールアップにつながる待遇改善や評価制度の整備を進めながら、労働現場の負担を軽減する効率化技術の導入にも積極的な投資を行っています。

計画2年目からは、これらを確実な成果につなげるべく取り組みを加速していきます。本計画は、2020年3月期の連結業績における「売上高1,160億円」「営業利益47億円」の達成を目指しており、後述の通り売上高目標については、1年前倒しでクリアする見通しです。一方、営業利益については、受注環境の変動や人手不足による労務費・外注費の上昇など、今後の業績悪化リスクが内包している状況であることから、計画を達成させるためには施策を確実に実施していかなければならないと考えております。

Q ＞翌期（2019年3月期）の見通しをお聞かせください。

A ＞受注の好調と過去最高の繰越高をもとに増収を見込むも、利益圧迫要因を踏まえて減収を想定。

翌期の受注環境は、引き続き老朽化対策としての補修・保全工事などの全国的な増加が見込まれ、首都圏における大型再開発は、東京オリンピック以降においても底堅く推移していく見通しです。当社グループにおいては、過去最高となる1,373億円の繰越高を確保しており、大幅な増収が期待できる反面、鋼材価格や輸送コストの上昇、労務費の上昇、補修工事の増加に伴う現場施工への対応などが利益圧迫要因として想定されます。

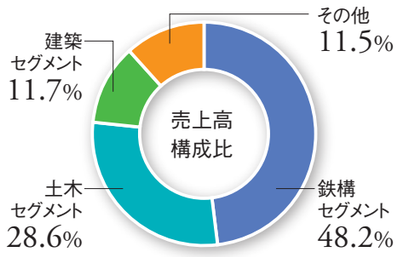
以上を前提に翌期の連結業績は、受注高1,125億円（当期比7.9%減）、売上高1,200億円（同11.9%増）、営業利益42億円（同5.3%減）、経常利益40億円（同12.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益25億円（同38.6%減）と、増収・減益を予想しています。

私たちは、グループ理念「安心で快適な生活環境の創造」を全従業員で共有し、グループ各社が持つ多様な強みを活かした事業活動を展開していきます。そして、そのシナジーを最大限に発揮することで、持続的成長と企業価値の拡大を実現し、社会から必要とされる企業グループを目指してまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

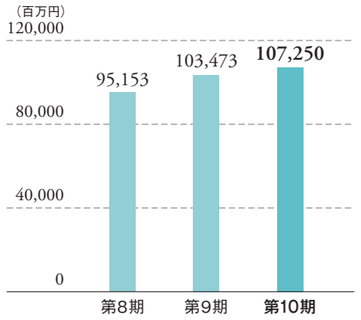
連結業績ハイライト

当期の決算ポイント

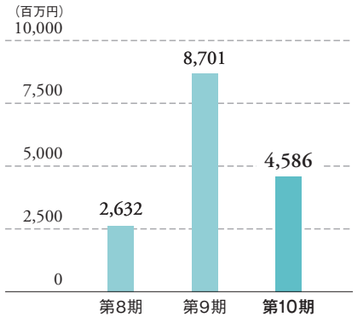
- 鉄構、土木セグメントの堅調推移により売上高は増加
- 鉄構セグメントの設計変更額の減少と建築セグメントの採算性悪化により利益は減少
- 鉄構セグメントの受注高を大幅に伸ばせたことにより、受注高は増加
- 1株当たり60円の期末配当



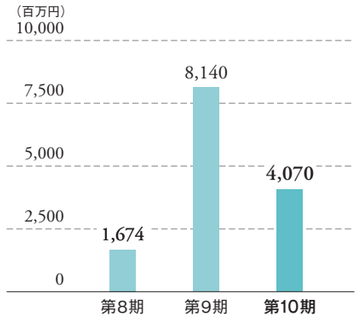
●売上高



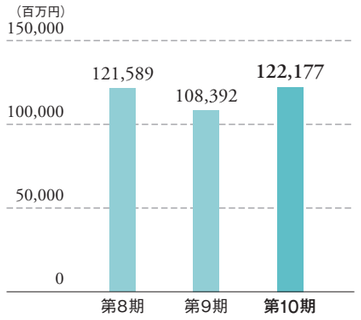
●経常利益



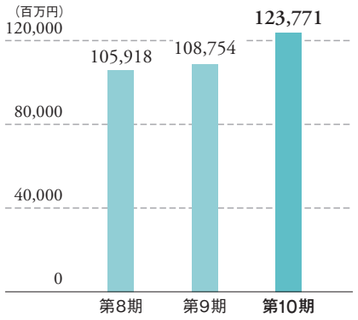
●親会社株主に帰属する当期純利益



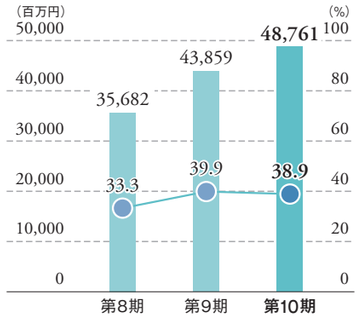
●受注高



●総資産

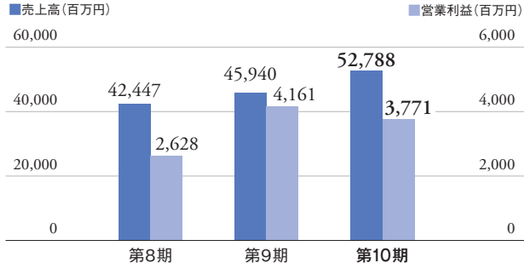


●純資産／自己資本比率



鉄構セグメント

売上高	52,788百万円
営業利益	3,771百万円



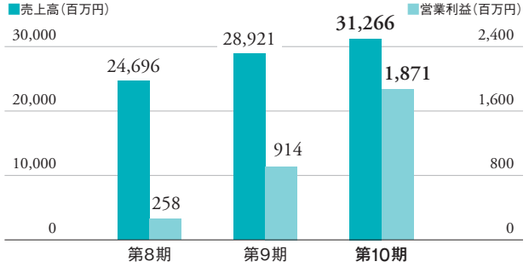
鋼製橋梁事業は前連結会計年度並みの水準にとどまったものの、鉄骨事業において首都圏大型工事の製作が堅調に進んだことで、売上高52,788百万円（前年度比14.9%増）となりました。損益面では、設計変更の獲得額が前連結会計年度に比べ減少したことで、営業利益3,771百万円（同9.4%減）となりました。

(仮称)日本橋室町三丁目地区市街地再開発計画A地区新築工事(東京都)

主な連結子会社： 川田工業株式会社

土木セグメント

売上高	31,266百万円
営業利益	1,871百万円



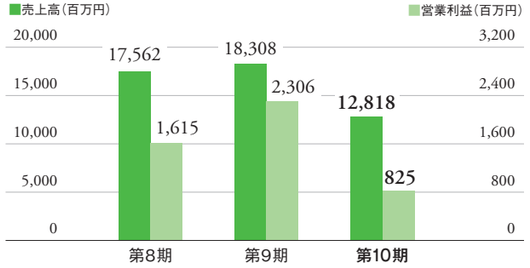
前連結会計年度からの豊富な繰越高を受け、高速道路会社をはじめとした大型工事が順調に進捗したことで、売上高は、31,266百万円（前期比8.1%増）と増加しました。損益面では、工期の長い高速道路会社の大型工事が竣工するにあたり設計変更が獲得できたことで、営業利益は1,871百万円（同104.7%増）と大幅に増加しました。

大津信楽線新3号橋(近畿地方整備局)

主な連結子会社： 川田建設株式会社

建築セグメント

売上高	12,818百万円
営業利益	825百万円



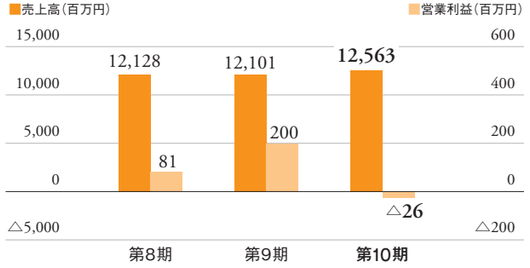
システム建築に比べ、工事の進捗の遅い一般建築の割合の増加に加え、当連結会計年度の受注が中盤以降に集中したことで、当期の出来高が伸びず、売上高は、12,818百万円（前期比30.0%減）となりました。損益面では、売上高が減少したことに加え、採算性の高いシステム建築の割合が低下したことで、営業利益は825百万円（同64.2%減）となりました。

大塚倉庫株式会社赤穂営業所赤穂第3倉庫新築工事(兵庫県)

主な連結子会社： 川田工業株式会社

その他

売上高	12,563百万円
営業利益	△26百万円



売上高は12,563百万円（前期比3.8%増）となりましたが、損益面では、販売費及び一般管理費が増加したことで営業損失26百万円（前期営業利益200百万円）となりました。

仙台空港新社屋(東邦航空株式会社)

主な連結子会社： 川田テクノシステム株式会社
株式会社橋梁メンテナンス
東邦航空株式会社
新中央航空株式会社
カワダロボティクス株式会社

(注) P7−8のセグメント業績につきましては、セグメント間の内部売上高等を含めて記載しております。

特集

加速する橋梁の長寿命化対策

―当社グループの床版取替の取り組み―

高度経済成長期に集中的に整備された橋梁が、急速に高齢化する時代を迎えています。このような状況において、高速道路会社6社は総額4兆円にのぼる大規模更新・大規模修繕計画を発表し、そのうち15年間で3兆円の事業費を計画しているNEXCO3社では、その半分強となる1兆6,500億円が床版取替を対象としています。急速に需要の拡大が見込まれる床版取替において、当社グループは着実に施工実績を積み重ねておりますので、ここにご紹介いたします。

床版（しょうばん）とは

床版とは、橋梁の主桁の上に施工された、車両が自由に走行できる平面部材です。最も一般的な床版形式は鉄筋コンクリート床版です。

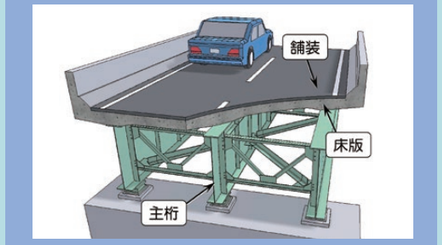


図1：橋梁の断面図

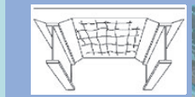


図2：床版の損傷例
※）松井繁之編著「道路橋床版の長寿命化技術」より

当社グループの強み

図3：KK合理化継手

KK合理化継手

KK合理化継手の開発により、取替え床版の厚さを低減できるようになり、既設主桁への負荷を軽減できます。また、現場の鉄筋配置が容易になり、施工の省力化が図れます。

沖縄自動車道
明治山第二橋（下り線）他
1橋床版改良工事
- 西日本高速道路株式会社
- 2016年完成
- 川田建設

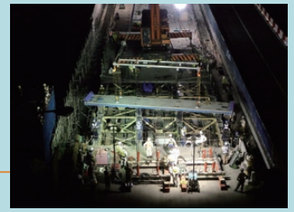
沖縄自動車道
福地川橋（上り線）他
1橋床版取替工事
- 西日本高速道路株式会社
- 2019年完成予定
- 川田建設

北陸自動車道
早月川橋床版更新工事
- 中日本高速道路株式会社
- 2017年完成
- 川田建設

東北自動車道
迫川橋床版取替工事
- 東日本高速道路株式会社
- 2019年完成予定
- 川田建設

東名高速道路
沼津IC～富士IC間
床版取替工事
- 中日本高速道路株式会社
- 2019年完成予定
- ピーエス三菱・川田建設・駒井ハルテックJV

東名高速道路
用宗高架橋鋼橋補強工事
- 中日本高速道路株式会社
- 2017年完成
- 川田建設



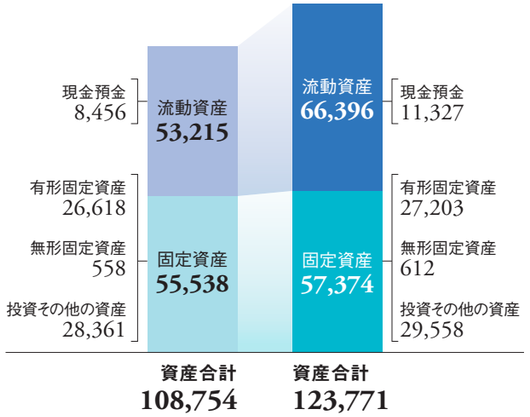
西名阪自動車道
御幸大橋（下り線）
床版補強工事
- 西日本高速道路株式会社
- 2011年完成
- 川田工業

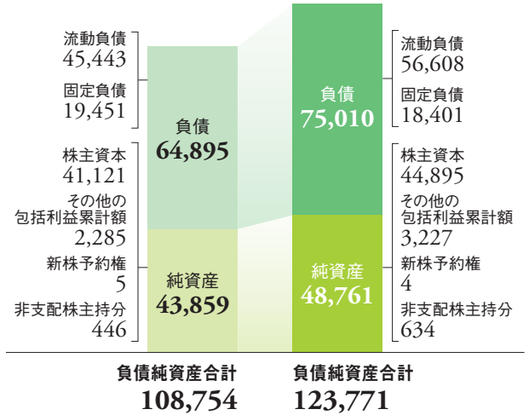
西日本高速道路株式会社より受領

一般国道304号道路
橋梁補修
新打尾橋床版補修工事
- 富山県
- 2013年完成
- 川田工業

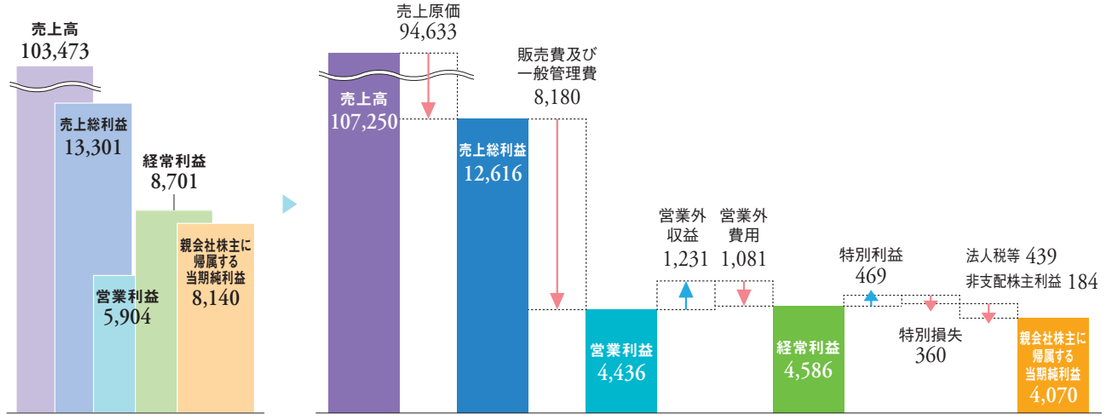
連結決算概要

連結貸借対照表の概要 （単位：百万円）



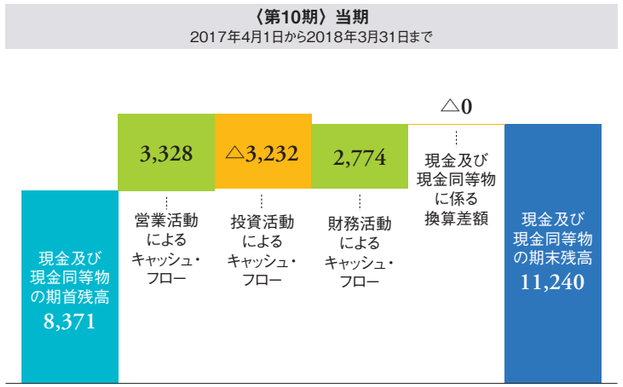


連結損益計算書の概要 （単位：百万円）



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 （単位：百万円）

（注）△印は、マイナスを示しています。



● 営業活動によるキャッシュ・フロー

3,328百万円の資金増加（前連結会計年度は13,855百万円の資金増加）となりました。これは主に、仕入債務の増加によるものであります。

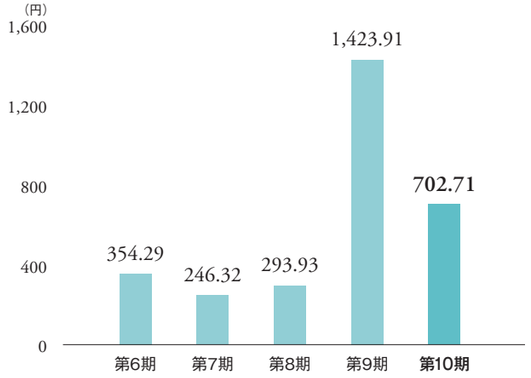
● 投資活動によるキャッシュ・フロー

3,232百万円の資金減少（前連結会計年度は3,338百万円の資金減少）となりました。これは主に、設備投資による固定資産の取得等によるものであります。

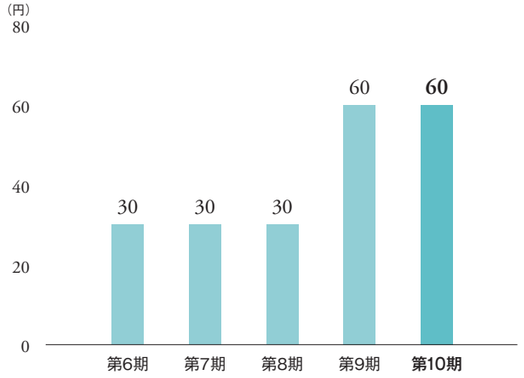
● 財務活動によるキャッシュ・フロー

2,774百万円の資金増加（前連結会計年度は8,223百万円の資金減少）となりました。これは主に、借入金の増加によるものであります。

1株当たり当期純利益



配当



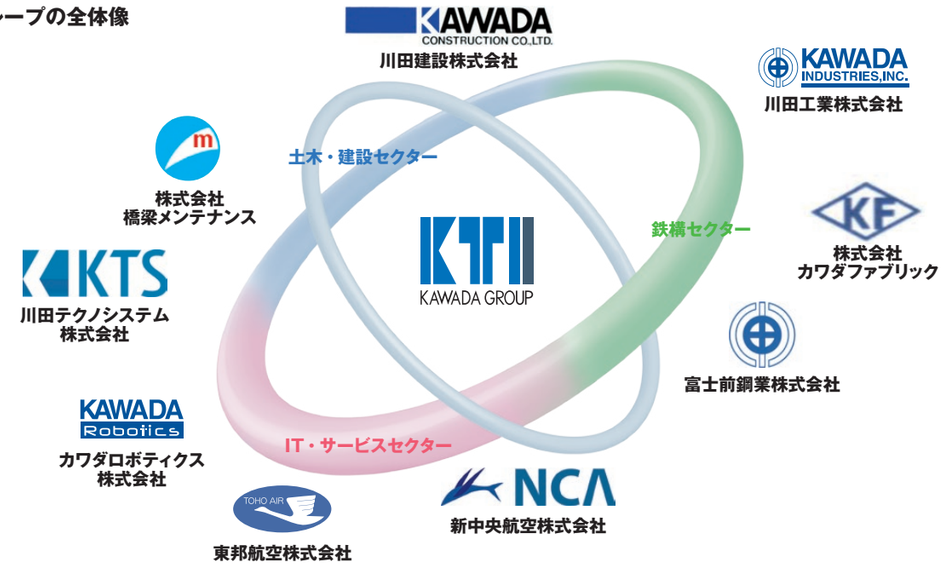
会社の概要 (2018年3月31日現在)

商号	川田テクノロジーズ株式会社 KAWADA TECHNOLOGIES, INC.
事業内容	鋼製・PC 橋梁及び建築鉄骨の設計・製作・架設・据付、一般建築・システム建築、土木建設関連ソフトウェア開発等を営むグループ企業の経営計画・管理並びにそれらに附帯する業務
設立	2009年2月
所在地	【東京本社】 〒114-8563 東京都北区滝野川一丁目3番11号 TEL：03-3915-7722 【富山本社】 〒939-1593 富山県南砺市苗島4610番地 TEL：0763-22-8822
資本金	5,166,302,250円
決算期	3月31日
従業員数	67名（連結2,256名）

代表者及び役員

代表取締役社長	川田 忠裕	常勤監査役	山田 勇
常務取締役	渡邉 敏	監査役	岡田 敏成
取締役	川田 琢哉	監査役（社外）	高木 武彦
取締役	井藤 晋介	監査役（社外）	髙木 繁雄
取締役（社外）	山川 隆久		
取締役（社外）	高桑 幸一		

川田グループの全体像



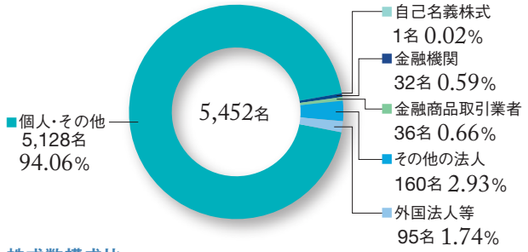
株式の状況 (2018年3月31日現在)

発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式の総数	5,859,570株
株主数	5,452名
大株主	

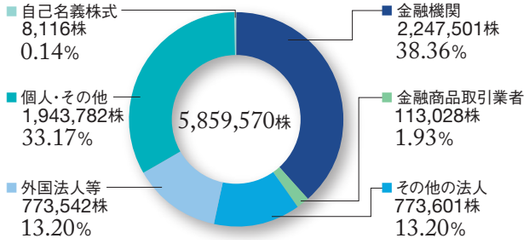
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	817	13.96
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	326	5.58
株式会社北陸銀行	284	4.87
株式会社三菱東京UFJ銀行	265	4.54
川田テクノロジーズ社員持株会	228	3.90
川田工業協力会持株会	177	3.03
富士前商事株式会社	141	2.42
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	118	2.02
川田忠樹	102	1.76
三菱UFJ信託銀行株式会社	100	1.71

※持株比率は自己株式（8,116株）を控除して計算しております。

株主数構成比



株式数構成比



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人、特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	（連絡先） 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL：0120-232-711（フリーダイヤル） （郵送先） 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所（市場第一部）
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.kawada.jp

（ただし、電子公告によることができない事故、そのほかのやむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に掲載いたします。）

●ご注意

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求そのほか各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ります。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。